

# 第2期 八代市

まち・ひと・しごと

## 創生総合戦略

令和4年度進捗状況について

令和5年10月

# 目次

---

1. 基本戦略Ⅰ	
住みたいまち	5
2. 基本戦略Ⅱ	
働きたいまち	11
3. 基本戦略Ⅲ	
育てたいまち	17

評価	評価の説明
○	目標値を達成しているもの
↗	計画策定時の値と比べ、数値が上昇しているもの
→	計画策定時の値を維持しているもの
↘	計画策定時の値と比べ、数値が低下しているもの

## 重要目標達成指標一覧

No	数値目標	策定時		R4実績値	評価	目標と実績の差	該当ページ
		現状(R1)	目標(R6)				
<b>基本戦略Ⅰ 住みたいまち</b>							
1	住み続けたいと思う市民の割合(%)	76.8	80.0	79.4	↗	▲ 0.6	P5
2	人口社会増減率(%)	▲ 0.26	▲ 0.20	0.00	○	0.20	P5
<b>基本戦略Ⅱ 働きたいまち</b>							
1	若者・子育て世代(20歳～34歳)が5年後に帰ってくる人数(人)	351	360	-	-	-	P11
2	事務的職業及びIT関連職業の求人倍率(倍)	0.38	0.50	0.41	↗	▲ 0.09	P11
3	市内高校の新卒者が管内に就職したいと思う割合(%)	26.8	30.0	34.0	○	4.0	P11
<b>基本戦略Ⅲ 育てたいまち</b>							
1	希望出生率(%)	1.88	2.00	-	-	-	P17
2	子ども女性比(%)	20.8	25.5	18.2	↘	▲ 7.3	P17

## 重要業績評価指標(KPI)一覧

No	重要業績評価指標(KPI)	策定時		R4実績値	評価	目標と実績の差	該当ページ
		現状(R1)	目標(R6)				
<b>基本戦略Ⅰ 住みたいまち</b>							
1. 災害に強く安心して暮らせるまちづくり							
1	緊急時における避難体制や市からの情報提供が整っていると感じる人の割合(%)	39.9	60.0	49.8	↗	▲ 10.2	P5
2	防災士の資格を持つ人数(人)	148	198	180	↗	▲ 18	P5
3	避難に関する協定数(人)	20	25	30	○	5	P6
4	防災アプリ、メールの登録者数(人)	0	40,000	24,377	↗	▲ 15,623	P6
2. 全ての人が利便性を享受できるデジタル化の推進							
5	市が提供するさまざまな市民サービスが整ってきたと感じる人の割合(%)	28.6	50.0	32.2	↗	▲ 17.8	P7
6	新たな交通サービスの導入に向けた取組件数(件)	0	3	2	↗	▲ 1	P7
7	オンラインでできる行政手続きの数(件)	17	100	69	↗	▲ 31	P8
8	先進技術を活用した業務改善の取組件数(件)	0	30	11	↗	▲ 19	P8
3. 地域資源を活かした多様な交流の実現							
9	観光入込客数(人)	2,169,748	2,170,000	1,988,207	↘	▲ 181,793	P9
10	スポーツ大会・合宿に伴う宿泊者数(人)	5,054	7,500	8,070	○	570	P9
11	民俗伝統芸能伝承館の累計入館者数(人)	0	60,000	19,088	↗	▲ 40,912	P9
12	市内で生活している外国人との関わりが増えてきたと感じる割合(%)	23.6	35.0	30.9	↗	▲ 4.1	P10
13	ふるさと納税寄付額(千円)	355,000	1,000,000	2,180,203	○	1,180,203	P10
<b>基本戦略Ⅱ 働きたいまち</b>							
1. 挑戦する人と企業を応援するまちづくり							
1	認定創業支援等事業による創業者数(人)	56	80	43	↘	▲ 37	P11
2	中心市街地でのICT産業への就業人数(人)	0	20	11	↗	▲ 9	P11
3	中心商店街の歩行者・自転車通行量(人)	6,756	9,000	5,628	↘	▲ 3,372	P11
4	UIJターンでの就業人数の増加(指数)	100	110	75	↘	▲ 35	P12
5	地域産業での新規事業創出数(件)	0	15	16	○	1	P12
2. 稼げる農林水産業の推進							
6	農業経営者所得(万円)	411	450	520	○	70	P13
7	先端技術を活用した補助事業の件数(件)	21	28	41	○	13	P13
8	新規就農者数(人)	17	40	24	↗	▲ 16	P14
9	販路拡大のための拠点数(箇所)	0	3	1	↗	▲ 2	P14

No	重要業績評価指標(KPI)	策定時		R4実績値	評価	目標と実績の差	該当ページ
		現状(R1)	目標(R6)				
3. 南九州のゲートウェイ「八代港」の利用促進							
10	八代港総取扱貨物量(万トン)	447	497	401	↘	▲ 96	P15
11	クルーズ船寄港数(回)	19	100	2	↘	▲ 98	P15
12	八代港のコンテナ取扱量(TEU)	23,357	29,000	25,372	↗	▲ 3,628	P15
13	イベント開催回数(回)	0	20	20	○	0	P16
14	観光体験プログラムの催行回数(回)	15	25	0	↘	▲ 25	P16
基本戦略Ⅲ 育てたいまち							
1. 次代を担う子供の育成							
1	教育環境の整備・充実に満足する市民の割合(%)	0.0	70.0	55.0	↗	▲ 15.0	P17
2	「授業が分かる」と思っている子供の割合(小学校)(%)	83.2	90.0	82.2	↘	▲ 7.8	P17
3	「授業が分かる」と思っている子供の割合(中学校)(%)	67.3	75.0	72.8	↗	▲ 2.2	P17
4	学校が「楽しい」と思っている子供の割合(小学校)(%)	64.6	70.0	57.8	↘	▲ 12.2	P18
5	学校が「楽しい」と思っている子供の割合(中学校)(%)	52.2	60.0	54.8	↗	▲ 5.2	P18
6	幼稚園、小・中学校施設の安全性や快適性が確保されていると感じる保護者の割合(%)	44.8	60.0	47.0	↗	▲ 13.0	P18
2. 安心して子どもを産み育てることができるまちづくり							
7	本市が子育てしやすいと感じる人の割合(%)	67.0	70.0	-	-	-	P19
8	本市で子育てを希望する人の割合(4か月健診時)(%)	95.0	97.0	96.9	↗	▲ 0.1	P19
9	こども医療費助成の延べ件数(件)	251,449	255,000	257,874	○	2,874	P20
10	こどもプラザの延べ利用者数(人)	13,515	15,000	7,435	↘	▲ 7,565	P20
3. 仕事と家庭を両立しながら楽しく子育てできるまちづくり							
11	子育てが楽しいと感じることが多い人の割合(%)	59.2	63.0	-	-	-	P21
12	ICTを活用する子育て支援事業数(事業)	0	4	2	↗	▲ 2	P21
13	病児・病後児保育の利用申込に対する利用決定率(%)	100	100	100	○	0	P22
14	市主催のプログラミングスクール等の受講者数(人)	0	300	242	↗	▲ 58	P22

## 基本戦略Ⅰ 住みたいまち

### ■重要目標達成指標

数値目標	策定時		R4	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
住みたいと思う市民の割合(%)	76.8	80.0	79.4	↗	▲ 0.6
人口社会増減率(%)	▲ 0.26	▲ 0.20	0.00	○	0.20

### ■基本目標と具体的施策

#### 基本目標1. 災害に強く安心して暮らせるまちづくり

熊本地震や令和2年7月豪雨等を教訓として、先進技術も活用しながら、市民、事業所、行政等多様な主体が災害時の備えを行い、発災時には協働することで、市民総ぐるみで災害に強く、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R4	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
緊急時における避難体制や市からの情報提供が整っていると感じる人の割合(%)	39.9	60.0	49.8	↗	▲ 10.2

#### (1)多様な担い手による防災の推進

災害にしっかりと備え、災害時にも安心できる体制を確保するためには、行政はもとより、市民、自主防災組織、企業など、多様な担い手による防災体制を確保する必要があります。そのため、防災人材の育成や自主防災組織の活動促進、防災に協力いただける企業等の確保を行うなど、市民総ぐるみの防災体制の構築を目指します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
防災士の資格を持つ人数(人)	148	198	R4状況	165	180	-	-	↗	▲ 18
今後の方針									
・市ホームページ等において、防災士資格取得を目的とした県主催の地域防災リーダー育成講習「火の国ぼうさい塾」の周知とともに、資格取得費用への補助制度の周知を継続して実施していく。									

(2) 防災・減災のための基盤整備

発災時の被害の最小化を図るため、道路や情報基盤などの社会基盤の強靱化を強力に進めていきます。加えて、多様な避難を推進することで、災害時にも適切に情報を収集し、安心して避難できる体制の確保を目指します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
避難に関する協定数(件)	20	25	R4状況	30	30	-	-	○	5
R4状況 民間4施設と協定締結に向けて協議を実施。利用条件や場所などの調整・協議を継続した。									
今後の方針									
津波・高潮避難ビルや車中避難を目的とした避難場所の協定など、協定数の少ない項目を中心に民間事業者への協力を呼び掛けを継続する。									

(3) 先進技術を活用した防災・減災の推進

Society5.0 における安全安心なまちづくりにつなげるため、国や先進自治体、大学、企業などと連携の上、防災分野においてICT やAI などの先進技術の活用を検討します。これらの技術を用い、防災関連情報を分かりやすく伝え、迅速に収集することのできる体制の整備や効率的な避難所の運営など、防災・減災体制の充実・強化を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
防災アプリ、メールの登録者数(人)	0	40,000	R4状況	20,777	24,377	-	-	↗	▲ 15,623
R4状況 令和4年度の防災アプリやメールを含む「@infocanal」の登録者数は3,600人であった。要配慮者に戸別受信機の利用を促すため、貸与要件を緩和し、福祉関係事業者等への説明会を実施した。									
今後の方針									
ショッピングセンターでの登録会を定期的の実施し、令和5年度以降は旧町村毎に行われる「お祭り」において防災関連ブースを設け、周知・啓発を行う予定である。									

## 基本目標2. 全ての人が利便性を享受できるデジタル化の推進

業務改革(BPR)や制度の見直し等を実施した上で、行政サービスのデジタル化に必要な情報システムの整備を行うなど、国の動きと連動しながら、「すぐ使えて」、「簡単」で、「便利」な利用者中心の行政サービスの実現に向けて取り組みます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R4	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
市が提供するさまざまな市民サービスが整ってきたと感じる人の割合(%)	28.6	50.0	32.2	↗	▲ 17.8

### (1) 交通・決済等の生活面におけるデジタル化の推進

市民にデジタル化活用の支援を行うと共に、地域に最適で持続可能な公共交通を実現するため、先進技術を活用した新しい輸送・移送手段を導入し、移動の利便性の向上に努めます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)		0	2	-	-		
新たな交通サービスの導入に向けた取組件数(件)	0	3	R4状況	五家荘地域において、令和5年1月から自家用有償旅客運送「ごかくるま」の運行が開始された。1月から3月の間で延べ100名以上の利用があり、好調な滑り出しとなっている。 乗合タクシーの運行効率化と利便性の向上を図るため、令和5年度から一部の路線においてAIオンデマンド方式を導入するための検討を行った。					
今後の方針									
・引き続き、乗合タクシーへのAIオンデマンド方式の導入に向けた具体的な検討を行う。 ・また、国交省公募事業として、新八代駅からくまモンポート八代までをつなぐ、デマンド型の新たなモビリティの導入に向けた実証実験に取り組む。									

(2)いつでも・どこでもつながる市役所づくり

市民生活の利便性を高めるため、手続きのオンライン化、情報のオープン化、市政の見える化などを推進し、いつでもどこでも利用しやすい行政サービスの充実を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
オンラインでできる行政手続きの数(件)	17	100	R4状況	24	69	-	-	↗	▲ 31
<p>国が運営する「マイナポータル」を活用した子育て・介護関係等の21手続き、及びオンライン申請作成ツールを活用した、マイナンバーカードの受取予約等23手続きを新たにオンライン化。                      公共施設オンライン予約システムにおいては、お祭りでんでん館のオンライン予約を開始した。                      また、本市のオンラインでできる行政手続きをわかりやすく伝えるため、市のホームページ上に、ポータルサイト「ねっとで窓口」を開設した。</p>									
<p>今後の方針</p>									
<p>デジタル市役所の構築に向け、今後も行政手続きのオンライン化を拡充していくとともに、オンライン申請が可能な手続きの周知、及び利用者が使いやすくなるようデザイン性や操作性を高めるなど利用促進を図る。</p>									

(3)先進技術による庁内業務の効率化

本市の運営の効率化を図るため、庁内業務のデジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進し、人的・財政的な負担を軽減しながら、市民生活を支える様々なサービス機能の維持・向上を実現します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
先進技術を活用した業務改善の取組件数(件)	0	30	R4状況	7	11	-	-	↗	▲ 19
<p>市政の情報発信力を強化するため、市HPと公式LINE上でAIが問合せ対応を行う「AIチャットボット」の運用を開始した。                      市役所内部においては、RPA(業務自動化)等を活用し、おくやみ用データ作成、新規職員採用登録、公用車運行管理等の業務効率化に取り組んだ。                      また、新型コロナウイルス対策や多様な働き方の実現に向け、テレワークやWeb会議の利用環境の整備を行った。</p>									
<p>今後の方針</p>									
<p>庁内業務の更なる効率化を図るため、BPR(業務の抜本的見直し)を行うとともに、生成AI等のデジタル技術を活用した業務改善について調査研究し、効果が認められるものについては導入を進めていく。</p>									

### 基本目標3. 地域資源を活かした多様な交流の実現

本市が有する地域資源の活用や多文化共生の推進により、多様な交流のあるまちづくりを推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時		R4	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
観光入込客数(人)	2,169,748	2,170,000	1,988,207	↘	▲ 181,793

#### (1) スポーツを活かした交流人口の拡大

官民一体で組織される地域スポーツコミッションにより大会・合宿の誘致やスポーツツーリズムを推進するほか、ホストタウン相手国との交流を促進することで、スポーツを通じた交流人口の拡大による地域活性化に取り組みます。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状 (R1)	目標 (R6)							
スポーツ大会・合宿に伴う宿泊者数(人)	5,054	7,500	R4状況	6,183	8,070	-	-	○	570
<p>・スポーツ大会・合宿に伴う宿泊者数は令和4年度目標値の6,400人に対し、実績は8,070人であったことから、目標達成とする。(別紙)</p> <p>・数値目標を達成できた要因は、官民一体の組織である八代市スポーツコミッションが中心となって、九州小学生PGAバドミントン大会など新規大会を誘致した。また、SPORTECの出展、スポーツ団体や旅行代理店への訪問など、営業活動を実施したため。</p> <p>・令和5年度以降に向けた取り組みとして、西日本大学男子ソフトボール選手権の誘致のため、西日本大学ソフトボール連盟に対して要望活動を行った。</p>									
今後の方針									
<p>今後も引き続き、八代市スポーツコミッションを中心に、西日本大学女子ソフトボール大会、バドミントン日本A代表合宿など、新規のスポーツ大会や合宿の誘致に取り組んでいく。</p>									

#### (2) 歴史・文化を活かした交流人口の拡大

民俗伝統芸能伝承館などの文化施設をはじめ、日本遺産認定、八代城築城400年等を契機とした歴史文化遺産の活用促進、情報発信の強化を図ることで、地域活性化を推進するとともに、インバウンドへの対応を含めた交流人口の拡大に取り組みます。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時		実績値	R3	R4 (R3～累計)	R5 (R3～累計)	R6 (R3～累計)	評価	目標値と実績の差
	現状 (R1)	目標 (R6)							
民俗伝統芸能伝承館の累計入館者数(人)	0	60,000	R4状況	9,475	19,088	-	-	↗	▲ 40,912
	未開館	R3～6累計		<p>入館者数の2年目以降の目標18,000人を下回り、実績値は9,613人であったが、コロナ禍での外出自粛や行動制限の発令、インバウンドの停止などマイナス要因がある中で、イベントの開催や博物館、松浜軒と連携した割引チケット配布による周遊性の向上に取り組んだことにより、一定の入館者数を確保したと考えられる。</p>					
今後の方針									
<p>令和4年度以上に展示替えの回数を増やすとともに、各種講座や民俗芸能体験など子供から大人まで幅広い年代を対象としたイベントの開催を企画し、これらの情報について広報やつしろ、ホームページ、SNSなど様々な広報媒体による情報発信を行い、さらには、クルーズ船の寄港が再開したことを活かして観光客を受け入れることにより、歴史・文化を活かした地域活性化と交流人口拡大に取り組んでいく。</p>									

(3) 多文化共生のまちづくり

外国人市民が暮らしやすく、外国人観光客が訪れやすい環境を整えるため、多言語化の推進や日本人・外国人が相互理解を深める機会を提供するなど、多文化共生のまちづくりに取り組みます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
市内で生活している外国人との関わりが増えてきたと感じる割合(%)	23.6	35.0	R4状況	33.4	30.9	-	-	↗	▲ 4.1
<p>令和4年度は、やつしろ国際協会が中心となり、日本語教室や異文化カフェ、外国人が活躍する職場見学会、やさしい日本語講座など、市民対象の講座等を開催し、多文化共生への理解促進に取り組んだ。 令和3年度からマイナス2.5%となっているが、その要因として、コロナ禍の水際対策強化による在住外国人数の減少が影響したのではないかと考える。</p>									
<p>今後の方針</p>									
<p>・水際対策が撤廃され外国人数も増加していることから、更に多文化共生への理解促進に力を入れていく必要がある。 ・引き続き、現在の取組を継続しつつ、活動の輪を地域全体にひろげるためにも、多文化共生推進の中心的な役割を担うやつしろ国際協会の会員獲得、活動の充実に力を入れていく。</p>									

(4) 物産をきっかけとした魅力向上

本市の魅力向上を図るため、ネット販売やふるさと納税事業などで注目を集め始めている特産品を足掛かりとした、本市の魅力発信に取り組みます。あわせて、ふるさと納税事業などから消費者が求める特産品の情報を生産者にフィードバックし、特産品の魅力向上に取り組みます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
ふるさと納税寄付額(千円)	355,000	1,000,000	R4状況	1,764,608	2,180,203	-	-	○	1,180,203
<p>令和4年度の取り組みとしては、①全国的な寄付の傾向と人気のある返礼品を参考に、事業者の協力のもと、ニーズの高い返礼品を多く登録できたこと。②掲載ポータルサイトを4サイト増やし、合計11サイトとして、全国の寄付者への周知機会を増やしたこと。③人気の返礼品が全国ランキング1位になったことにより、全国ネットのテレビ番組でも取り上げられたこと。④全国で開催される「ふるさと納税イベント」に多く出展したことで知名度が上がったことなどが要因と思われる。</p>									
<p>今後の方針</p>									
<p>課題としては、地元事業者との連携協力により返礼品の登録数を増やす努力を継続することが必要となるが、そのためには1担当1業務ではなく、八代市として組織的な取り組みが必要と思われる。今後、職員数の増員を図ることで、事業者との連携をはじめ、全国へのプロモーションを図っていくことが本市の財源を維持するために大事である。</p>									

## 基本戦略Ⅱ 働きたいまち

### ■重要目標達成指標

数値目標	策定時		R4	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
若者・子育て世代(20歳～34歳)が5年後に帰ってくる人数(人)	351	360	-	-	-
事務的職業及びIT関連職業の求人倍率(倍)	0.38	0.50	0.41	↗	▲ 0.09
市内高校の新卒者が管内に就職したいと思う割合(%)	26.8	30.0	34.0	○	4.0

### ■基本目標と具体的施策

#### 基本目標1. 挑戦する人と企業を応援するまちづくり

市民が生き生きとした生活を営むためには、生活の糧を得るための収入の確保が重要です。

本市の中心市街地をIT産業の集積と人材育成の拠点として、市内外から人と企業を呼び込むだけでなく、そこに集まった人々が市内各地へも足を運ぶ仕組みを作るとともに、地域産業のデジタル・トランスフォーメーション(DX)導入とITスキル人材との融合を図るなど、生産活動にかかわる多様な人や企業を多面的に応援します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R4	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
認定創業支援等事業による創業者数(人)	56	80	43	↘	▲ 37

#### (1) 中心市街地を核としたICT産業の集積と人材の育成

中心市街地の賑わいづくりと地域産業の活性化を図るため、中心市街地エリアにおいてICTビジネスの集積を図るとともに、コワーキングスペース等を活用したICT人材の育成及びマッチングを展開します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差	
	現状(R1)	目標(R6)							
中心市街地でのICT産業への就業人数(人)	0	20	実績値	11	11	-	-	↗	▲ 9
			R4状況	令和4年度は、中心市街地へオフィス系企業2社の誘致に成功したが、雇用まで繋がらず、就業人数が策定時の目標の半分程度にとどまっている。今後も誘致企業の雇用に対する取り組みについて支援を継続していく。					
中心商店街の歩行者・自転車通行量(人)	6,756	9,000	実績値	5,940	5,628	-	-	↘	▲ 3,372
			R4状況	新型コロナウイルス感染症の影響により、飲食店の時短営業やイベントの自粛、外出規制等で通行量が減少した。					

#### 今後の方針

引き続き、中心市街地でのイベント補助や空き店舗解消への支援等に取り組んでいく。令和5年度からは、「こいこい広場」や「がらっぱ広場」において、台車を活用したイベントへの支援を実施しており、広場周辺に人を集めることで、中心商店街へ誘客し賑わいを創出していく。

(2) 関係人口の創出・拡大とUIJ ターン受入れ

ビジネスを軸とした関係人口の創出・拡大を図るため、情報発信や副業人材活用などに取り組みます。また、本市の取組に関心を持ち、中心市街地等を訪れた方々を市内各地区に誘客し、リモートワークや多拠点居住による長期滞在、最終的には、移住・定住先として、選ばれるまちづくりを推進します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)		80	75	-	-		
UIJ ターンでの就業人数の増加(指数)	100	110	R4状況	策定時と比較して75%の数値にとどまっており、昨年実績値と比較しても下がる結果となった。理由としては、コロナ禍で就業人数自体が減少していることなどが考えられる。 八代圏域雇用促進センターへの委託事業として、UIJウェブサイトの作成、移住希望者向けのオンライン展示会参加、UIJイベントの開催等を継続しており、実績に繋げていく。					
今後の方針									
八代圏域雇用促進センターに委託しオンライン相談会等を実施する。また、情報発信力強化のためのSNS活用、移住希望者のための相談窓口の設置等を新たに実施予定。									

(3) 地域企業の成長支援

地域企業の稼ぐ力を高めていくとともに、企業や住人が自ら地域の課題への解決策を考え、自分の強みや地域資源を活用することで、ローカルイノベーションを起こしていく意識と行動を起こすような企業と産業の担い手を育成、支援していきます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4 (R3～累計)	R5 (R3～累計)	R6 (R3～累計)	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)		9	16	-	-		
地域産業での新規事業創出数(件)	0	15	R4状況	令和4年度までに、第1・第2期生26名のうち、50%の実施率を目標に取り組み、計16名61%の実施率となり、目標値を上回る結果となった。産学官金での支援体制及び伴走型での支援を行ったことが実績に繋がったと考えている。 次年度以降は、県内でも未来創造塾の姉妹塾が増えており、他市町村と交流を深めながら実績に繋げていきたい。					
今後の方針									
引き続き、熊本大学をはじめ市内経済団体・金融機関と連携して事業を推進していくとともに、県内外の姉妹塾と情報共有を行いながら、事業自体のブラッシュアップを行っていく。令和4年度は更に地域や高校生との繋がりに注力していき、「地方創生」につなげていく。									

## 基本目標2. 稼げる農林水産業の推進

高品質な農林水産物の安定生産に向け、生産、流通・販売、消費にわたるフードチェーンのスマート化を支援し、本市の特性を活かした生産体制の確立や低コスト化に取り組み、稼げる農林水産業を実現するとともに、担い手の確保を推進します。

また、フードバレーやつしろの取組を進めるなど、農林水産物の需要拡大を創出します。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時		R4	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
農業経営者所得(万円)	411	450	520	○	70

### (1)スマート農林水産業の推進

本市の主要産業である農林水産業の持続性を高めるため、作業の効率化や省力化による生産性の向上等に向け、スマート農林水産業を推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状 (R1)	目標 (R6)							
先端技術を活用した補助事業の件数(件)	21	28	R4状況	31	41	-	-	○	13
<p>令和4年度は例年の補助事業に加えて、近年の燃油価格高騰を背景とした新規事業を実施したことから、令和6年度の目標値に向けて順調な取組ができた。 令和5年度以降においても、農業団体・関係機関と連携しながら取組を進めていく予定としている。</p>									
<p>今後の方針</p>									
<p>・農業の担い手が減少傾向にあり、農作業の効率化・省力化は本市の重点項目であることから、今後も積極的に取組・支援を行っていく。</p>									

**(2)新規就農者に対する支援**

本市農業生産の持続的な発展のため、品質向上、生産性向上、経営の確立を基本とし、新規就農者の多様なニーズに合わせた技術習得、農業経営スキルの向上の支援を行います。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
新規就農者数(人)	17	40	R4状況	29	24	-	-	↗	▲ 16
各団体との連携による周知活動から新規就農者数を調査している。学卒新規就農者については、前年度より減少したものの、Uターンによる新規就農者は増加している。コロナ禍の影響があるのか、新規雇用が増加していることから、目標達成に至っていない。									
今後の方針									
・令和4年度に引き続き、県・農業団体と連携を図り、各種事業の啓発等を実施する。 ・令和4年度より国の新規事業である新規就農者育成総合対策を活用し、担い手の更なる確保を図る。									

**(3)農林水産物のブランド確立・販路拡大**

本市の食関連産業の活性化と生産者等の所得向上を図るため、農林水産物の国内外でのプロモーション活動やITの活用、販路開拓・販路拡大のための拠点づくり、消費者ニーズを踏まえた新商品開発に取り組めます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
販路拡大のための拠点数(箇所)	0	3	R4状況	0	1	-	-	↗	▲ 2
令和3年度に選定した商流拠点を中心に、R4年度は市アドバイザーと連携し、国内外商談会等へ出展及び出展サポート、輸出実務業務等各種事業を実施した。									
今後の方針									
R5年度は新たに2箇所の商流拠点候補地を選定し、設置を進めるとともに、国内外商談会等の実務経験を積み、商流を担う人材育成を推進し、販路拡大を実施していく。									

基本目標3. 南九州のゲートウェイ「八代港」の利用促進

「国際旅客船拠点形成港湾(くまモンポート八代)」が整備されたことにより、物流機能と人流機能を最大限に発揮できるようになった県内最大の貿易港である「八代港」のさらなる利用を促進し、本市産業の活性化を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R4	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
八代港総取扱貨物量(万トン)	447	497	401	↘	▲ 96
クルーズ船寄港数(回)	19	100	2	↘	▲ 98

(1) 航路誘致へのポートセールスと八代港を活用する企業の誘致

国、県による港湾施設の整備等の物流機能の強化にあわせ、積極的なポートセールスを展開するとともに、後背地に港湾利用企業の誘致を進めることで、八代港の利用促進を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差	
	現状(R1)	目標(R6)		26,946	25,372	-	-			
八代港のコンテナ取扱量(TEU)	23,357	29,000	R4状況	R3.1月より新たに台湾航路が就航したことでR3は過去最高の取扱量を記録したものの、コロナ禍に起因する傭船料(船の賃借料)が高騰したことでR4.1月から台湾航路が週1便から隔週1便に改編。これによりR4の貨物取扱量が前年比微減となった。					↗	▲ 3,628
今後の方針										
<p>今後は台湾半導体大手TSMCの日本法人JASMの熊本県内での新工場稼働も控えていることから、原材料輸入の受入港として八代港の利用促進を図っていく。また、こうした動きに合わせて市としても八代港を新規利用する際の【八代港コンテナ物流トライアル事業助成金】などを創設し、より一層の集荷活動に取り組んでいくこととしている。</p>										

## (2)くまモンポート八代の利用促進

海の玄関口である国際クルーズ拠点「くまモンポート八代」において、多様な主体によるイベントの開催や誘致による賑わいの創出を行うとともに、「くまモンポート八代」周辺施設との連携事業を実施し、利用促進に繋げていきます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)		4	20	-	-		
イベント開催回数(回)	0	20	R4状況	R4年度からコロナの状況を踏まえながら、順調にイベントの実施回数が増加しており、ポストコロナに向けた賑わいが創出されつつある。					
今後の方針									
R3年度に比べイベント回数が、約5倍に増加し、イベント会場としての認知度も高まってきている。また、R5年度からは、クルーズ船の寄港の増加が見込まれており、クルーズ船の寄港と連携したイベントの開催を推進していく。									

## (3)クルーズ船による地域の活性化

新型コロナウイルス感染症収束後のクルーズ船寄港回復を見据え、受入環境の整備を継続実施し、交流人口の拡大など地域の活性化を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)		0	0	-	-		
観光体験プログラムの催行回数(回)	15	25	R4状況	令和2年より、新型コロナウイルス感染症の影響で停滞していたクルーズ船の寄港(3寄港)が、ようやく始まったものの、乗船客による市内観光の実施がなく、体験プログラムの催行もできなかった。					
今後の方針									
令和5年度より、国内外におけるクルーズ船の運航が本格化する見込みとなっており、状況を注視しながらクルーズ船の寄港に合わせた観光体験プログラムの催行を進めていく。									

## 基本戦略Ⅲ 育てたいまち

### ■重要目標達成指標

数値目標	策定時		R4	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
希望出生率	1.88	2.00	-	-	-
子ども女性比(%)	20.8	25.5	18.2	↘	▲ 7.3

### ■基本目標と具体的施策

#### 基本目標1. 次代を担う子供の育成

1人1台のタブレットPCを用いて“EdTech”を活用することにより、誰一人取り残すことなく子供たちの力と可能性を最大限引き出す教育の実現、災害や感染症等の状況下における学びの保障及び子供・家庭との効果的なコミュニケーションの実現を目指します。

また、学校・園、子供たち及びその保護者のニーズに応えられる指導体制を構築し、子供たちの新しい時代を生き抜く力の育成に向けた授業づくりを推進します。

さらに、教育環境の質的向上を図る整備を行い、新たな教育的ニーズに対応できる次世代の教育インフラの充実に取り組みます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R4	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
教育環境の整備・充実に満足する市民の割合(%)	-	70.0	55.0	↗	▲ 15.0

#### (1)1人1台のタブレットPCを活用した新たな時代を豊かに生きる力の育成

1人1台のタブレットPCの機能を学校及び家庭において効果的かつ最大限に活用し、個別最適化された学びの実現、課題解決能力の育成、日常的な家庭との連携、どのような状況であっても学び続けることができる環境づくりを目指します。

重要業績評価指標(KPI)		策定時		R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差	
		現状(R1)	目標(R6)							
「授業が分かる」と思っている子供の割合(%)	小学校	83.2	90.0	実績値	84.5	82.2	-	-	↘	▲ 7.8
				R4状況	「授業が分かる」と回答した児童の割合は、昨年度よりやや低下した。令和4年度は、授業におけるICT活用の推進に向けて、主に以下のような取組を行った。 ・授業におけるICT活用に関する教職員向けの研修を実施した。 ・授業における1人1台タブレットPCの活用の好事例について、研修や校務支援システム等の活用を通して、学校内や学校間で情報共有を行った。 ・ICT授業サポーターによる訪問支援や遠隔支援により、教職員の授業におけるICT活用を支援した。 ・ICT学習支援ツール「スタディサプリ」を導入し、学校教育活動及び家庭学習において活用した。					
	中学校	67.3	75.0	実績値	73.9	72.8	-	-	↗	▲ 2.2
				R4状況	「授業が分かる」と回答した児童の割合は、昨年度よりやや低下した。令和4年度は、授業におけるICT活用の推進に向けて、主に以下のような取組を行った。 ・授業におけるICT活用に関する教職員向けの研修を実施した。 ・授業における1人1台タブレットPCの活用の好事例について、研修や校務支援システム等の活用を通して、学校内や学校間で情報共有を行った。 ・ICT授業サポーターによる訪問支援や遠隔支援により、教職員の授業におけるICT活用を支援した。 ・ICT学習支援ツール「スタディサプリ」を導入し、学校教育活動及び家庭学習において活用した。					
今後の方針										
令和4年に引き続き、教職員研修、学校内・学校間の情報共有、ICT授業サポーターによる支援を継続していく。また、ICT学習支援ツール「スタディサプリ」の更なる活用を推進していく。令和5年度には、各学校における1人1台のタブレットPCの活用をより充実させるために、ICT推進教育モデル校(第二中)の研究発表会を開催し、研究・取組の成果を本市全体へ広げる。										

(2) 子供の生きる力を育成する学校・園教育の充実

子供の生きる力を育成するため、豊かな心の育成、郷土愛の育成及び良好な人間関係づくりを進めるとともに、誰一人として取り残さない個別最適化された学びの実現に向けた学校・園教育の充実を行います。

重要業績評価指標(KPI)		策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
		現状(R1)	目標(R6)							
学校が「楽しい」と思っている子供の割合(4段階評価の「4」の割合)(%)	小学校	64.6	70.0	実績値	59.4	57.8	-	-	↘	▲ 12.2
				R4状況	・令和3年度から下降傾向にある。 ・学校が「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した割合まで含めると、90.7%となり、約9割の児童が肯定的な回答をしている。 ・子供を取り巻く課題の多様化、複雑化に伴い、子供一人一人へのよりきめ細かな対応が必要となってきた。					
	中学校	52.2	60.0	実績値	57.2	54.8	-	-	↗	▲ 5.2
				R4状況	・令和3年度から下降傾向にある。 ・学校が「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と回答した割合まで含めると、91.4%となり、約9割の生徒が肯定的な回答をしている。 ・子供を取り巻く課題の多様化、複雑化に伴い、子供一人一人へのよりきめ細かな対応が必要となってきた。					
今後の方針										
引き続き、学校、地域、家庭が連携して、豊かな心の育成、郷土愛の育成及び良好な人間関係づくりを充実し、誰一人取り残さない個別最適化された学びの実現に向けた学校教育を推進する。										

(3) 快適な教育環境の整備

子供たちが安全で安心し、快適な環境で学び、生活できるようにするため、子供たちの学びを支える教育環境の質的向上・充実を推進します。また、大規模地震や豪雨災害に対応できるよう、校舎における非構造部材耐震化や避難所としての防災機能強化に取り組みます。

■重要業績評価指標(KPI)

重要業績評価指標(KPI)		策定時			R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
		現状(R1)	目標(R6)							
幼稚園、小・中学校施設の安全性や快適性が確保されていると感じる保護者の割合(%)	44.8	60.0	実績値	51.7	47.0	-	-	↗	▲ 13.0	
			R4状況	・地震時の児童生徒等の安全及び災害時の避難所機能を確保するため、小学校2校で非構造部材(吊下げ式スクリーン)の撤去と小学校1校の屋外トイレの改築工事を行った。 ・また、建物の外壁落下等を未然に防ぐための外壁の劣化状況について、小学校6校、中学校5校、幼稚園1園の点検調査を行い、令和3年度からの繰越して外壁の改修工事を小学校1校で行った。 ・実績値が下がっているが、教室など児童生徒等や教職員がよく使用し目にする箇所の工事が少なかったことで、改修工事が行われている実感が湧かなかったことなどが要因として考えられる。						
今後の方針										
・子供たちが安全で安心な環境で教育を受けられるように教育施設の整備を図り、また、地震時の安全及び災害時の避難所機能を確保するため、令和5年度は外壁の点検調査(小学校5校、中学校4校)や吊下げ式スクリーン撤去(小学校、中学校3校ずつ)を実施する。 ・教育環境の改善のため、校舎トイレの改修工事の設計(小学校7校、中学校2校)や、避難所としての防災機能強化にも繋がる体育館や屋外トイレの和便器の洋式化工事(小学校10校、中学校5校)を実施し、今後も和便器の洋式化を推し進めていく。										

## 基本目標2. 安心して子どもを産み育てることができるまちづくり

結婚・妊娠期から出産・子育て期にわたる包括的支援体制の充実を図り、切れ目のない支援に取り組むとともに、安心して子どもを産み育てられるよう、子育て世帯の経済的及び精神的な負担の軽減に取り組めます。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R4	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
本市が子育てしやすいと感じる人の割合(%)	67.0	70.0	-	-	-

### (1) 結婚・妊娠期から子育て期にわたる包括的な支援体制の充実

結婚を望む市民に出会いと交流の場を設けるほか、地域に根差した結婚活動を支援します。また、市民が安心して子どもを産み育てることができるよう、妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援体制の充実を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
本市で子育てを希望する人の割合(4か月健診時)(%)	95.0	97.0	R4状況	97.5	96.9	-	-	↗	▲0.1
<p>妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の充実を図っており、数値目標はおおむね達成している。 R4年度は、相談支援の充実と経済的負担の軽減を図る「出産・子育て応援事業」や、1歳児を対象とした「パースデー予防歯科」(歯科相談、フッ化物歯面塗布)を開始した。</p>									
<p>今後の方針</p>									
<p>少子化対策が課題であり、子育て家庭へ定住に向けた取り組みが必要である。令和5年度は保育料の完全無償化や子育て家庭訪問支援事業、産後ケアの拡充等の実施を予定している。</p>									

**(2)子育て世帯の経済的負担の軽減**

経済的な不安が出産や子育てに影響を及ぼすことがないように、子育て世帯の経済的負担の軽減を継続します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
子ども医療費助成の延べ件数(件)	251,449	255,000	R4状況	248,867	257,874	-	-	○	2,874
R4年度助成件数は策定時の目標値より+2,874件であり、(R2)対象者18,086人、延べ件数221,588件、助成額431,809,962円、(R3)対象者17,726人、延べ件数242,390件、助成額484,625,686円、(R4)対象者17,318人、延べ件数257,874件、助成額498,411,176円と推移しており、保護者の経済的負担の軽減につながっている。									
今後の方針									
引き続き子どもの健康保持と健全育成、また保護者の経済的負担の軽減につなげるため、事業を推進していく。									

**(3)子育て世帯の精神的負担の軽減**

子育て世帯の精神的負担を軽減するため、子育て親子の交流を促進するとともに、相談体制を強化するなど、支援体制の充実を図ります。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)							
子どもプラザの延べ利用者数(人)	13,515	15,000	R4状況	7,625	7,435	-	-	↘	▲ 7,565
令和2年度から新型コロナウイルス感染症対策のため、講座の縮小や一度に利用する人数の制限を行っており、その影響で利用者も利用自粛の傾向が顕著にみられ、(R2)延べ利用者5,853人、(R3)延べ利用者7,625人、(R4)延べ利用者7,435人と推移し目標値を下回り、利用者数が大きく減少している。									
今後の方針									
令和5年5月8日からの新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行後、これまで実施していたメニューを復活させ、子育て親子の交流の場の提供や子育てに関する悩みの相談、子育て関係の情報提供など、充実した支援を実施する。									

### 基本目標3. 仕事と家庭を両立しながら楽しく子育てできるまちづくり

妊娠中や子育て中の方の多様な子育てニーズに対応したサービスを提供するほか、保育者の働き方改革を推進し、より質の高い保育を提供します。  
 加えて、多様で柔軟な働き方や在宅勤務(テレワーク)にもつながるリカレント教育の推進やキャリアチェンジへの支援を行います。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		R4	評価	目標値との差
	現状値(R1)	目標値(R6)			
子育てが楽しいと感じる人の割合(%)	59.2	63.0	-	-	-

#### (1)ICT を活用した子育て支援の推進

保護者の多様なニーズに対応するとともに、子育てサービスの利便性を高めるため、ICTを活用した子育て支援を推進します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)		1	2	-	-		
ICT を活用する子育て支援事業数(件)	0	4	R4状況					↗	▲ 2
今後の方針									
保育所等におけるICTを活用したシステムの導入については、令和4年度に引き続き、私立保育所の保育ICTシステム導入に対し支援を行う。									

(2) 質が高く利便性の高い保育環境づくり

待機児童「ゼロ」を継続するため、引き続き、保育所等の施設整備に取り組みます。また、保育者が保育に専念できる環境を整備するとともに、保護者にとって利便性の高い保育環境づくりを推進します。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)		100	100	-	-		
病児・病後児保育の利用申込に対する利用決定率(%)	100	100	R4状況	市内受け入れ3施設(キッズルーム、キッズケアホーム、病児・病後児ハウスひかり)を活用し、令和4年度は、利用延人数 601人を受け入れた。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で一時的に利用が減少し、利用延人数 348人、令和3年度は742人、令和4年度は601人と推移している。利用申し込みに対する利用決定数は各年度とも100%であり、保護者の子育てと就労の両立を支援している。					
今後の方針									
引き続き、市内受け入れ3施設(キッズルーム、キッズケアホーム、病児・病後児ハウスひかり)及び氷川町の施設(ハグくむ)と連携して事業を推進していく。									

(3) 子育て中や子育て後でも就労しやすい環境づくり

就労に対し制限が必要なタイミングであっても、就労やキャリアアップ等ができるまちづくりを推進するため、多様な柔軟な働き方の普及を後押しするとともに、リカレント教育の推進やキャリアチェンジへの支援を行います。

重要業績評価指標(KPI)	策定時		実績値	R3	R4	R5	R6	評価	目標値と実績の差
	現状(R1)	目標(R6)		116	242	-	-		
市主催のプログラミングスクール等の受講者数(人)	0	300	R4状況	令和4年度は、県の夢チャレンジ推進事業を活用し、新たに世代別に分けた講座やデザインスキル習得のための講座を開催し、受講者数を伸ばすことができた。					
	未開催	累計							
今後の方針									
今後益々、ITスキルの需要は高まると考えられるため、引き続きニーズに合った講座を展開していく。令和5年は、令和4年度から開始したテレワークによる就労支援の強化を行っていく。									